



埼玉県マスコット
「コバトン」

平成31年産（30年播種）



麦類の生育概況 vol.3

（平成31年2月1日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要約

- ◎気象概況：1月の気温は平年並み、降水量は少なく、日照時間はかなり多かった。
- ◎生育状況：生育量は平年並みからやや大きく、生育進度は平年並みからやや早い。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・追肥：生育と麦種に合わせた追肥を実施する。
 - ・排水対策：排水機能を保つよう明きよと排水溝の点検補修を行う。
 - ・雑草防除：雑草の発生が見られるほ場では、雑草の種類と葉齢を確認した後、適期に防除を行う。
 - ・踏圧(麦踏み)：茎立ちまでに10日～2週間間隔で2回程度を目標に実施する。

1 気象の概況

1月の平均気温は第2半旬を除いて平年より高く、月平均では0.5℃高かった。降水量は、1月31日の降雨以外は、月全体を通してほとんど降雨がなく、月合計降水量は平年比18%であった。日照時間は、月全体を通して平年より多く、月合計では平年比120%であった。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 小麦（さとのそら）

乾燥により草丈はほとんど伸びず、平年よりやや低く推移しているが、葉位はやや進んでおり、莖数はやや多く、風乾歩合が平年より高くなっている。播種から平年より高温で推移しており、2月も平年より高温になると予想されているため、莖立期は平年に比べて早まる見込みである。

イ 大麦（彩の星）

草丈はほとんど伸びず、1月31日調査では平年よりやや低くなったが、莖数や葉位はほぼ平年並みであった。小麦同様、風乾歩合が平年より高くなっている。播種から平年より高温で推移しており、2月も平年より高温になると予想されているため、莖立期は平年に比べて早まる見込みである。

(2) 県内全般

11月に播種されたほ場ではセンター内同様、気温の低下に加え、12月12日以降降雨の無い状態が続いたことから、草丈の伸長は抑制された。葉位の進展も鈍化しつつあるが、依然として平年よりもやや進んでいる。分けつの発生は順調であり、12月上旬播種ほ場では分けつ始期となっている。

11月上旬に播種された大麦では、1月中旬ごろから葉色の低下や葉先の黄化が確認された。これは過剰生育に加え、乾燥や作土深が浅いことなどにより根の伸張が抑制されていることが要因と考えられる。

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

気象庁が1月31日に発表した1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多い見込みである。平均気温は高い確率60%、降水量は多い確率40%、日照時間は少ない確率40%である。

また、1月25日発表の3か月予報では、3月、4月ともに天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ない見込みである。気温は、3月は平年並みまたは高い確率ともに40%、4月は高い確率50%、両月とも降水量は平年並みまたは多い確率ともに40%である。

(2) 生育予測

今後も概ね気温は高く、降水量も多く推移すると予想されることから、小麦、大麦ともに生育は促進され、過繁茂な状態になると思われる。このため、特に11月中旬までに播種されたものは、莖立期の前進化や過剰生育による生育後半の凋落が想定される。

4 今後取るべき技術対策

(1) 追肥

小麦は追肥体系の場合、「さとのそら」は出穂2週間前（平年4月初頭）に窒素成分で3～4kg/10aを目安に施用する。但し、莖立ち後の機械散布が困難な場合は、莖立直前（平年3月上中旬）に実施する。「あやひかり」は2月下旬から3月上旬に窒素成分で2kg/10aを目安に施用する。

ビール麦は、前年産のタンパク質含量分析結果から施用時期及び施用量を調整する。高タンパク質の指摘があった場合は2月上旬に窒素成分で1.5～2kg/10a、低タンパク質の場合は2月下旬に窒素成分で2kg/10aを目安に施用する。

六条大麦は、2月中下旬に窒素成分で1.5～2kg/10a程度施用する。

いずれも播種が遅れるなどして、生育量が著しく少ないほ場では追肥を行わない。

また、11月上旬播種のほ場では生育が進んでいるため、ほ場を良く観察し生育状況に応じた適期を心掛ける。

(2) 排水作業

近年、まとまった降雨や降雪が多いため排水溝の不備は湿害を招きやすい。麦踏み等で明きょが埋もれていないか、外部の排水路と連結されているか等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

(3) 雑草防除

この時期は雑草が赤紫色を呈し、土壌と識別しにくいことから、発生始期を見逃してしまうことや、雑草の草丈が伸びずに葉齢が進んでしまうため、薬剤の効果が高い使用時期を過ぎてしまう可能性がある。雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さぬよう確実に除草剤散布を行う。

(4) 麦踏み

麦踏みには「根張りを良くする」、「伸びすぎを抑えて過繁茂を防ぐ」、「無効茎を淘汰し、強い有効茎を確保する」などの効果がある。茎立期までに10日～2週間の間隔を空け、2回程度を目標に実施する。

解析・考察に用いた具体的数字

1 1月の気象表(熊谷気象台日別測定値から集計)

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	5.3	4.4	12.2	10.0	-0.5	-0.3	0.0	3.5	46.1	34.1
2	3.3	4.2	8.7	9.6	-1.2	-0.5	0.0	3.9	37.5	33.6
3	4.3	4.0	9.9	9.4	-1.1	-0.6	-	5.1	34.8	33.2
4	5.6	3.9	11.9	9.2	-0.2	-0.7	0.0	6.0	43.6	33.0
5	4.4	3.8	10.3	9.2	-0.7	-0.8	0.0	6.5	43.6	33.7
6	4.2	3.9	11.0	9.3	-0.9	-0.8	6.0	7.5	47.1	42.4
平均	4.5	4.0	10.7	9.4	-0.8	-0.7	合計 6.0	32.6	252.7	210.6

注. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値

2 生育状況

品 種 名	調査日	草 丈		茎 数		葉 位		風乾重		風乾歩合	
		本年	平年比	本年	平年比	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年差
		(cm)	(%)	(本/株)	(%)	(L)		(g/100本)	(%)	(%)	
さとのそら	1月11日	11.5	90	4.1	94	4.8	0.1	15.7	84	28.8	5.8
	1月21日	11.8	92	5.3	101	5.3	0.1	22.2	89	29.0	6.0
	1月31日	11.5	88	7.9	124	6.2	0.5	31.0	93	28.2	5.6
彩の星	1月11日	14.0	102	5.4	88	5.0	0.0	27.2	89	20.6	4.6
	1月21日	14.2	97	7.4	94	5.5	-0.1	38.6	87	20.4	4.2
	1月31日	14.1	88	9.3	97	6.1	0.0	49.3	78	20.9	4.8

注1. さとのそら平年値は、過去5年間の平均値。□ 彩の星平年値は過去7年間の平均値。以下同様。

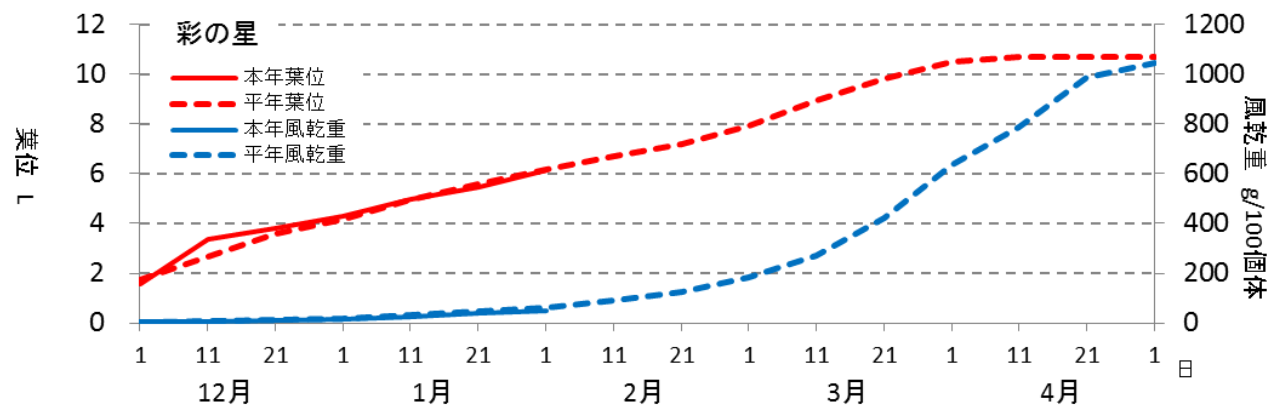
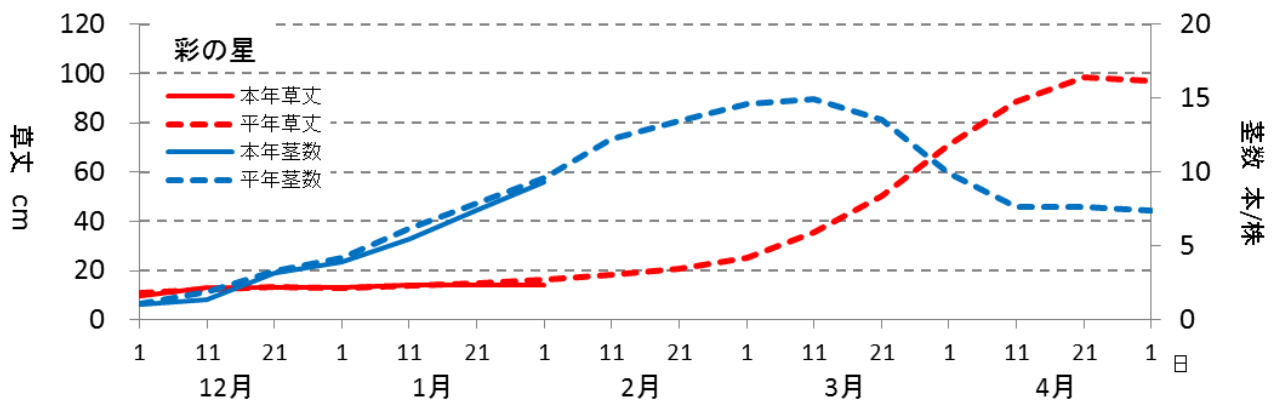
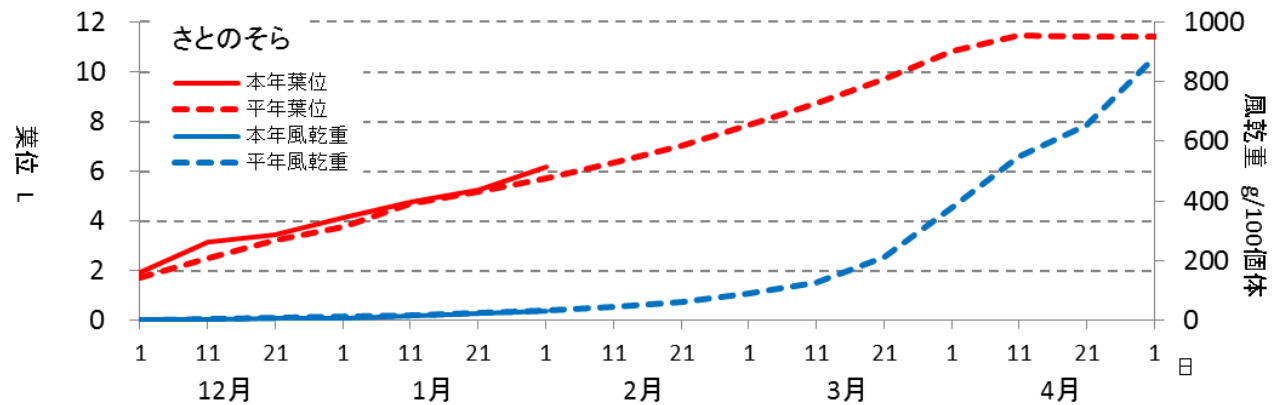
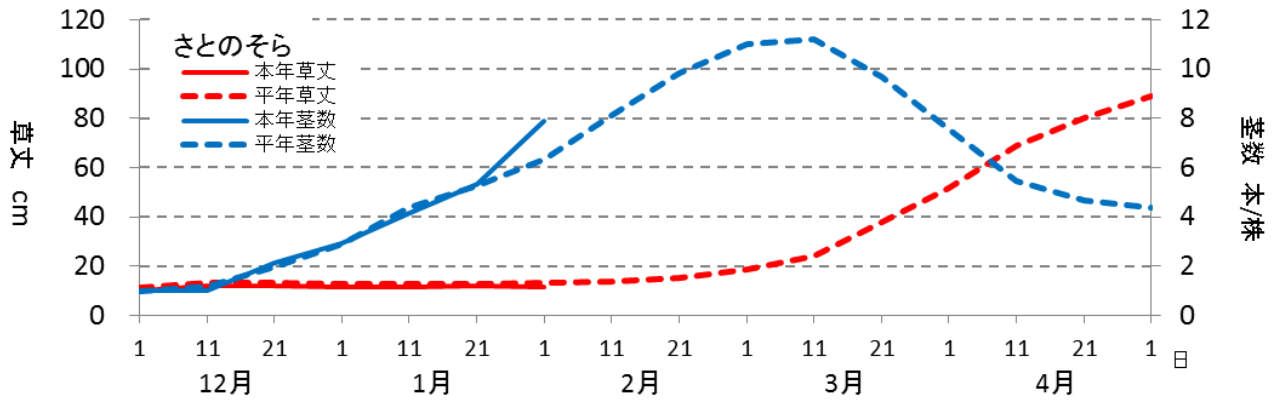
注2. 風乾重は、100個体当たりグラム。平年比は%。風乾歩合は風乾重/生体重。

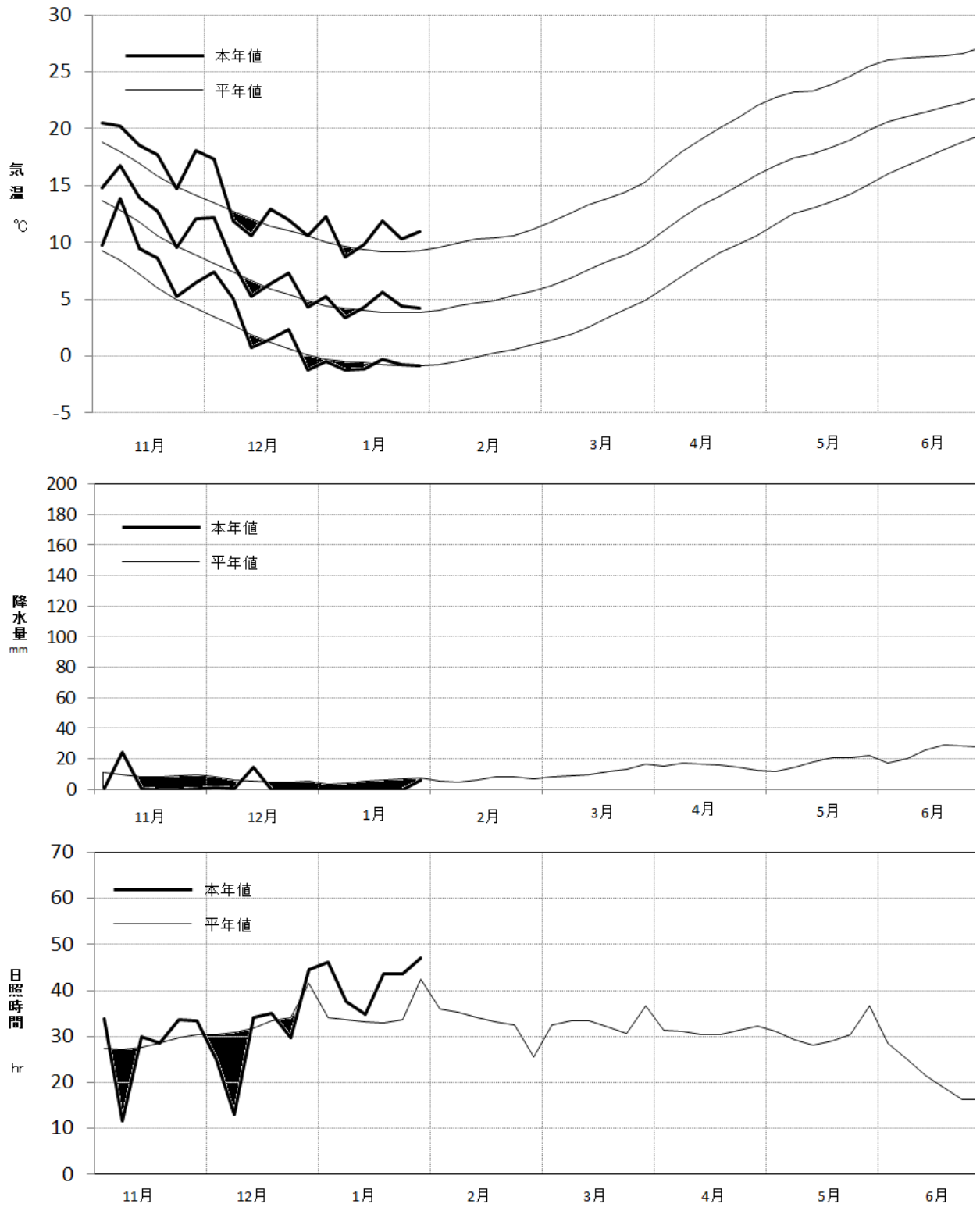
3 茎立期の予測

品 種 名	茎立期	平年値	本年茎立期 (予測値)
		播種日からの 積算気温*	
さとのそら	3月14日	767	3月3日
彩の星	3月4日	696	2月21日

*1月31日時点での実測値・気象庁HP「28日間平均気温の累積確率・確率密度分布図」及び平年値から予測

4 生育経過





平成30年冬作期間気象図（熊谷地方気象台測定値）